



為石小学校の合言葉 「ためし 最高！ ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



学校だより

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える



ためし



令和7年12月12日号 文責 上久木田 雄二

子どもの失敗の謝り方

子どもは成長の過程で、いろいろな失敗をします。

失敗の中には、かわいいいたずらから暴力・暴言行為までさまざまあります。

みなさんは、我が子が失敗したときにどんな感情を抱きますか。

- ①「失敗は親の恥」と考える
- ②「失敗は親の躾が原因」と考える
- ③「失敗は子どもだけの問題」と考える
- ④「失敗はお互い様」と考える
- ⑤「我が子は失敗しない」と考える

手塩にかけて育てた我が子ですので、まさかの失敗に戸惑うのは親の常です。

大切なことは、その後の処理をどうするかによると思うのです。

子どもの失敗に対して①や②を感じる方が最近増えています。子どもの失敗は、子ども自身の課題であると教員は捉えています。決して保護者の問題だけが失敗の原因とは考えません。

しかし、学校での子どもの姿を素直に受け取ることができないと、子どもの失敗を増幅させる可能性があります。

③だけを考えれば、子ども同士よりも家庭間のトラブルになりかねません。

③をふまえつつ、④「お互い様」の精神があれば、子ども同士も安心してその後の生活を過ごすことができるでしょう。

子どものいたずらや失敗は、未熟によるものがほとんどです。だからこそ、子どもの失敗を成長に変えるためには、

「親としての姿勢」

を見せることが大切です。

失敗に対する対応を子どもに見せてあげるのです。具体的に言えば、

「謝る姿勢」と「許す姿勢」

を教えてあげるので。親として「して見せる」のです。

当然のことですが、⑤のように考えれば、子どもが失敗に学ぶことはできません。子どもの未熟さを考えれば、

失敗したかもしれない

ことを前提に対応することが賢明です。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

